

## 地球温暖化対策に関する団体・事業者の取組について

(一社)岡山県婦人協議会	P. 1
岡山県地球温暖化防止活動推進センター	P. 2
認定 NPO 法人おかやまエネルギーの未来を考える会	P. 5
(一社)岡山県商工会議所連合会	P. 7
岡山県中小企業団体中央会	P. 8
中国電力(株)水島発電所	P. 9
JFE スチール(株)西日本製鉄所	P. 12
ENEOS(株)水島製油所	P. 13
(株)クラレ岡山事業所	P. 14
岡山県市長会	P. 15
岡山県町村会	P. 38

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：一般社団法人 岡山県婦人協議会

委員名：藤江 京子

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
環境にやさしい グリーン購入の 促進	通 年	グリーンコンシューマー10原則の推進
省エネルギー対 策の促進	〃	まめな節電やグリーンカーテンの促進
ちふれ化粧品の 利用促進	〃	詰替用商品で容器・ボトルの再利用をする
エコバッグの利 用促進	〃	エコバッグの利用
家庭排水の改善	〃	油を流さない、台所洗剤の使用を少なくする等 家庭で出来る事に取り組む

※県婦人協議会 理事・評議員会に於いて普及啓発を行う。

※支部・地域に於いて、普及啓発を行う。

地球温暖化防止プロジェクト推進会議

地球温暖化防止対策に関する取組状況について

所属団体名：岡山県地球温暖化防止活動推進センター

委員名：吉田 邦成

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
COOL CHOICE の啓発	通年	県民に対して、温室効果ガス削減への取組みを促すため、国民運動である賢い選択「COOL CHOICE」の啓発を行った。
クールビズ・ウォームビズの取組みの推進	通年	クールビズ、ウォームビズに関して、ポスター等の設置や啓発を行い、県民並びに職員へ周知した。
環境イベントへの出展	通年	新型コロナウイルスにより中止
節電、ライトダウンの取組	7月7日	岡山市と協働し、企画実施した。ソーラーランプを使った「紙コップ deco ランプ作り」を行うとともに、夜間照明を消して地球温暖化防止を訴えた。
緑のカーテンの設置	5～9月	夏の節電の啓発を目的に環境学習センター「アスエコ」の施設南面にゴーヤ等の緑のカーテンを設置した。
ノー残業デーの推奨	通年	週1回、残業を実施しない日を定めて事務所の消灯を行った。
コピー用紙、雑紙の回収	通年	事務所内から発生する、古紙、雑紙を分別し再利用やリサイクルを行った。
情報誌「環境」の発行	年4回 (季刊)	環境保全事業団が年4回独自に作成するエコ情報誌「環境 eco magazine」を発行した。(発行部数2,700部/回)
アースキーパーメンバーシップ制度の啓発	通年	県より受託したアースキーパーメンバーシップ事業において、新規入会者を増やすため、アスエコでのイベントの参加資格をアースキーパーであることとし、入会者の増加につなげた(令和3年12月末 14,570会員)。
地球温暖化防止活動推進員との協働	通年	住民への普及啓発など、地域における地球温暖化防止活動の推進役として県知事が委嘱している地球温暖化防止活動推進員と協働し、環境学習出前講座、アスエコスペシャルイベントなどで県民に対し温暖化防止に関する啓発を行った。
温暖化防止動画やパンフレット等での啓発	通年	温暖化防止に関する動画やパンフレットを作成し啓発を行った。
環境学習の推進	通年	岡山県と協働して、小学校や公民館などで環境学習出前講座(地球温暖化防止やエネルギー、自然環境の保全等)を実施した(令和3年12月末 365件実施)。また、出前講座の公平な機会提供と環境学習指導者の地域での繋がり強化のため、実施されていない学校や地域への広報活動を行った。

「かんぼん」の取組み (エコポイント制度)	通年	職員自らが取組んだ温暖化防止につながる活動に対してポイントを付与する制度。地域貢献として、職員が積立てたポイントに応じて、活動に役立つ備品を小学校などへ提供した。(1ポイント=100円として換算)
おかやま環境フォーラム 2022 の開催	2月	県民を対象に温暖化防止など地球環境問題に関するフォーラム「誰もができるサステナブルファッション」を開催。 ・講師 福田朋也氏 (環境省) ・トークセッションゲスト 福田朋也氏 (環境省) 羽富裕也氏 (菅公学生服株式会社) 池上慶行氏 (land down under 代表) 玉崎葵氏 (倉敷中央病院) 京深麻衣氏 (株式会社中国銀行)

## 2 温室効果ガス削減に係る取組計画等

岡山県地球温暖化防止活動推進センターとして、温室効果ガスの排出を 2050 年までに実質ゼロ、いわゆる「カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向けた様々な取組みの情報収集及び支援を行う。また、地球温暖化対策推進法の一部改正により「事業者向けの啓発・広報活動」に取り組んでいく予定である。

名 称	時 期	内 容 等
COOL CHOICE の啓発	通年	県民に対して、温室効果ガス削減への取組みを促すため、国民運動である賢い選択「COOL CHOICE」の啓発を行う。
クールビズ・ウォームビズの取組みの推進	通年	クールビズ、ウォームビズに関して、ポスター等の設置や啓発を行い、県民並びに職員へ周知する。
環境イベントへの出展	通年	地球温暖化に関する普及啓発を行う。
節電、ライトダウンの取組	7月7日	岡山市と協働し、夜間照明を消して地球温暖化防止を訴える企画を実施する。
ノー残業デーの推奨	通年	週1回、残業を実施しない日を定めて、事務所の消灯を行う。
コピー用紙、雑紙の回収	通年	事務所内から発生する、古紙、雑紙を分別し再利用やリサイクルを行う。
情報誌「環境」の発行	年4回 (季刊)	環境保全事業団が年4回独自に作成するエコ情報誌「環境 eco magazine」を発行する。(発行部数 2,700 部/回)
アースキーパーメンバーシップ制度の啓発	通年	岡山県で地球温暖化防止のために、地球にやさしい生活に取り組む人たちを、地球を守る人として会員登録する制度を県より受託し運営する。アスエコでのイベントの参加資格をアースキーパーであることとし、入会者の増加につなげる。
環境学習の推進	通年	岡山県と協働して、小学校や公民館などで環境学習出前講座(地球温暖化防止やエネルギー、自然環境の保全等)を実施する。

地球温暖化防止活動推進員との協働	通年	住民への普及啓発など、地域における地球温暖化防止活動の推進役として県知事が委嘱している地球温暖化防止活動推進員と協働し、環境学習出前講座、アスエコスPECIALイベントなどで県民に対し温暖化防止に関する啓発を行う。
温暖化防止動画やパンフレット等での啓発	通年	温暖化防止に関する動画やパンフレットを作成し啓発を行う。
「かんぽん」の取組み (エコポイント制度)	通年	職員自らが取組んだ温暖化防止につながる活動に対してポイントを付与する制度。地域貢献として、職員が積立てたポイントに応じて、活動に役立つ備品を小学校などへ提供する。(1ポイント=100円として換算)
おかやま環境フォーラム2023の開催	2月	県民を対象に温暖化防止など地球環境問題に関するフォーラムを開催する。

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：認定NPO法人おかやまエネルギーの  
未来を考える会

委員名：廣本 悦子

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
地球環境基金事業	2021年度中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体のゼロカーボン対策の参考に資することを目的に「提案書」を作成・配布。</li> <li>・断熱改修ワークショップを倉敷市の柏島小学校で実施。</li> <li>・中学生～大学生までの「エネミラユースチーム」で、学校のゼロカーボン化に向けて岡山市長・教育長に提案書を提出。</li> <li>・ユースチーム主体の中・高校生向けセミナーを3月20日開催予定。現在準備中。</li> <li>・自治体の中間支援セミナーを開催。</li> <li>・再エネ100%の暮らし方リーフレットを作成中</li> </ul>
岡山県地域新エネルギー導入推進研修会	5月、8月、12月、 2月(予定)	2回の講座(世界の脱炭素と再エネ、断熱改修) 1回の視察(西粟倉村)を実施。4回目も予定。
出前授業	随時	真庭市河内小学校、倉敷市味野・旭丘・柏島小学校。
出前講座	随時	京山公民館、岡西公民館、岡山環境ネットワーク、岡輝公民館(予定)、京山公民館の西粟倉ツアー(予定)。
活動紹介	5月 5月 11月 11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山県立大学「地域創成実践論」</li> <li>・山陽新聞主催シンポにユースメンバー出演</li> <li>・岡山環境ネットワークシンポジウム出演</li> <li>・操南中学校生徒会</li> <li>・エコるんクラブ</li> </ul>

STOP温暖化倉敷	8月	断熱改修セミナーを開催
イベント出展	随時	イオン倉敷、倉敷学習センター、ライフパーク
メディア	随時	F M倉敷、TBSラジオ、RSKラジオ、山陽新聞
自然エネルギー グッズ普及	随時	グッズ類のメンテナンス、木質ペレットの販売 等
J-クレジットの 仲介		倉敷市のJ-クレジットを販売
自治体の審議会 出席	12月	中国地域温暖化対策会議(オンライン)
寄附金贈呈	1月	あいおいニッセイ同和損保より
その他	随時	岡山市からの市民共同発電所交付金で普及啓 発。発電所10基のメンテナンス管理・運営

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>2022年度の取組予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校・中学校への出前授業</li> <li>・ 大人向け出前講座</li> <li>・ 断熱改修ワークショップ(複数件の予定)</li> <li>・ 地域新エネ導入推進研修事業</li> <li>・ エネミラユースチームの活動支援</li> <li>・ 自然エネルギーグッズの普及</li> <li>・ 市民共同発電所の維持管理</li> <li>・ その他</li> </ul>

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：(一社)岡山県商工会議所連合会

委員：藤原裕久

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
クールビズ推進	5月～10月	ノーネクタイ等軽装の推進
ウォームビズ推進	11月～3月	重ね着、温かい素材の服装の推進
商工会議所ビル内の対策	年間	過剰な冷暖房の削減、省エネ型の照明器具の設置、自動車通勤抑制の呼びかけ
環境社会（ECO）検定の実施	年2回	環境社会の普及啓発

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
SDGsの目標のもと総合的に地球温暖化対策に取り組む。

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：岡山県中小企業団体中央会

委員名：村上豊次

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
クールビズ・ウォームビズの自主的推進	5月～10月 11月～4月	設定温度管理。ノーネクタイ、ノー上着（クールビズ）、上着の着用等（ウォームビズ）など、職員が服装調整。また、主催会議等での各ビズの励行を行っている。
省エネ対策	通 年	<ul style="list-style-type: none"><li>・昼休みの消灯</li><li>・省エネエアコンの導入</li><li>・省エネカー（公用車）利用促進</li><li>・電灯LED化</li></ul>

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
◎公用車がリースアップする際の省エネカーへの切り替え ◎節水・節電への取り組み

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：中国電力株式会社 水島発電所

委員名：中井 樹

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
中国電力としての取組み	継続実施中	<p>■地球温暖化防止に向けた取組み</p> <p>原子力や再生可能エネルギーといった非化石エネルギーの利用拡大に取り組むとともに、新規開発する火力発電所については、経済的に利用可能な最良の技術（B A T : Best Available Technology）を採用するなど化石エネルギーの効率的な利用に努めています。</p> <p>また、石炭ガス化燃料電池複合発電などの CO<sub>2</sub> 低減に向けた先進的な技術開発や、石炭火力発電技術などの海外への技術支援による CO<sub>2</sub> 削減等の取組みも行っています。</p> <p>《具体例》</p> <p>■安全確保を大前提とした原子力発電の活用</p> <p>CO<sub>2</sub> 排出量の削減に大きな効果がある、島根原子力発電所の早期再稼働に向けた安全対策に確実に取り組むとともに、新たな基準に対応し、皆さまに安心していただける発電所となるよう安全確保に万全を期していきます。</p>
	継続実施中	<p>■水力の有効利用</p> <p>水力は再生可能な自然エネルギーであり、既存設備のリパワリング等を継続的に実施することで、水資源の有効利用推進と確保に努めています。</p>
	2011年12月～ （福山太陽光発電所） 2014年12月～ （宇部太陽光発電所）	<p>■太陽光発電の導入</p> <p>福山太陽光発電所、宇部太陽光発電所の2カ所メガソーラー発電（計6千kW）の営業運転を行っています。</p>

<p>中国電力としての取り組み</p>	<p>2007 年度から本格運用を開始</p> <p>2018 年 11 月～ (建設工事開始) 2022 年 11 月～ (営業運転開始)</p> <p>第 1 段階 2012～2018 年度 〔終了〕 酸素吹石炭ガス化複合発電 (酸素吹 IGCC ※3)</p> <p>※3 酸素を用いて石炭をガス化し、水素と一酸化炭素を主成分とする生成ガスを燃料とするガスタービンと蒸気タービンにより複合発電する技術。</p> <p>第 2 段階 2016～2022 年度 CO<sub>2</sub> 分離・回収型 IGCC</p> <p>第 3 段階 2018～2022 年度 CO<sub>2</sub> 分離・回収型 IGFC</p>	<p>■新小野田発電所 1, 2 号機のバイオマス混焼拡大 新小野田発電所 (石炭火力) では、2004 年度からの木質チップによるバイオマス混焼発電の実証試験を経て、2007 年度より本格的に運用を行っています。加えて、木質ペレットによる更なる利用拡大に向けた設備改良を行い、2020 年 8 月より、バイオマス混焼の拡大を図っています。</p> <p>■三隅発電所 2 号機の建設 建設中の三隅 2 号機 (石炭火力) では、利用可能な最良の発電方式を採用して経済性、環境性に優れた設備にするとともに、1 号機の運転実績により得られた知見を適用することで運転信頼性の向上を図っています。また、バイオマス燃料との混焼により、更なる CO<sub>2</sub> 排出抑制にも努めていきます。</p> <p>■大崎クールジェンプロジェクトの推進 当社は、電源開発㈱と共同で設立した大崎クールジェン㈱を通じ、石炭ガス化燃料電池複合発電 (IGFC※1) と CO<sub>2</sub> 分離・回収を組み合わせた革新的低炭素石炭火力の実現を目指した実証試験を推進しています。</p> <p>この発電技術は、従来型の石炭火力 (USC) と比べて、発電効率が飛躍的に向上するため、実用段階において約 30% の CO<sub>2</sub> 排出量の削減が期待できます。加えて、燃焼前の燃料ガスから効率的に CO<sub>2</sub> を分離・回収することが可能であり、CCUS / カーボンリサイクル※2 と組み合わせることで大幅な CO<sub>2</sub> 削減につなげることができると考えています。</p> <p>※1 IGCC に燃料電池 (FC) を組み合わせて発電効率を更に向上させる技術。 ※2 分離・回収した CO<sub>2</sub> を再利用したり、地中等へ貯留する技術。</p>
---------------------	--	--

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>■目標</p> <p>「2050年カーボンニュートラル」に挑戦します</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ エネルギーの脱炭素化を進めます。</li><li>◆ カーボンニュートラルへの挑戦を通じて、地域の発展に貢献します。</li><li>◆ カーボンニュートラルに資する技術開発を進めます。</li></ul>
<p>■取組予定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆再生可能エネルギー<ul style="list-style-type: none"><li>・ 着床式の洋上風力の開発やFIT買取期間が終了するメガソーラーの獲得・リプレースを進めることなどにより、「2030年までに30～70万kWの再生可能エネルギーを新規導入する」というビジョン目標の達成はもとより、更なる導入量の上乗せにも取り組みます。</li><li>・ 2050年に向けては、国内において着床式より導入ポテンシャルがあるとして技術開発が進められている、浮体式の洋上風力の導入にも取り組んでいきます。</li><li>・ また、他社と比較して揚水発電所の設備量比率が多い特徴を活かし、再生可能エネルギーの余剰電力を活用した揚水発電を行うことにより、再生可能エネルギーの導入量を更に増やしていきます。</li></ul></li><li>◆原子力<ul style="list-style-type: none"><li>・ 実用段階にある脱炭素化の選択肢であり、安全性の確保を大前提に、早期稼働・安定的な運転継続に向けた対応に注力します。</li><li>・ 2050年のカーボンニュートラルに向け、新規立地点である上関地点の開発にも取り組みます。</li></ul></li></ul>

2022年1月24日

JFEスチール株式会社西日本製鉄所  
(倉敷地区) 総務部総務室 藤本正文

### 地球温暖化防止対策に関する取り組み状況について

#### 1. 二酸化炭素の排出状況について

当社の2020年度の二酸化炭素の排出に関しましては、粗鋼生産1tあたりの排出量(原単位)において、2019年度比で3.01%減少いたしました。

	2019年度	2020年度	増減率
CO2原単位 (CO2-t/ts)	2.095	2.032	▽3.01%
CO2排出量 (CO2-百万t/年)	16.95	13.24	▽21.89%
粗鋼量 (千t/年)	8,090	6,513	▽19.49%

#### 2. 主な排出削減活動について

JFEグループは気候変動問題は事業継続の観点から極めて重要な経営課題と位置付け、2021年、「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を策定しました。CO2削減活動を推進し、中期経営計画の最重要課題に掲げ、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

当社としては、全社レベルにおいてCO2原単位の削減やエコプロダクトの供給拡大等に取り組んできておりますが、倉敷地区における至近での主な排出削減活動は以下の通りです。

- (1) 前回の会議資料でCO2削減に向けた取り組みとして紹介した、2020年度に改修工事に着手した倉敷地区第4高炉は、予定通り2021年12月に稼働しました。炉体の健全化と最新のDS・AI技術導入による操業安定化を図り、高炉で還元剤として使用するコークスの使用量の削減等により、CO2削減を行います。
- (2) JFEグループでは、再生可能エネルギーの主力電源として期待されている洋上風力発電の、発電設備の着床式基礎(モノパイル式)新工場建設に向けた設備投資を2021年に決定いたしました。モノパイル工場はJFEスチール西日本製鉄所(福山地区)の敷地内(岡山県笠岡市)に建設予定ですが、2024年のモノパイル製造開始に向け、倉敷地区では、洋上風力発電用大単重厚板の製造能力を增強し、安定的にモノパイルの素材を供給していきます。
- (3) カーボンニュートラルに向けた取り組みとして自動車の電動化に向けた流れが加速していますが、電動車の駆動モータに不可欠な高級無方向性電磁鋼板に対する需要の増加に対応するため、倉敷地区の電磁鋼板製造設備の增強を2021年に決定しました。設備の稼働は2024年度の予定です。

以上

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化防止対策に関する取組状況について

所属団体名：ENEOS(株)水島製油所

委員名：環境安全グループマネージャー 村上 順

取組実績及び計画等

名 称	時 期	内 容 等
ENEOS(株) 水島製油所 A/B工場	2021年 4月～	<p>■省エネルギー活動の推進</p> <p>ボイラーや加熱炉で燃料を燃焼し、製品製造に必要なエネルギー（熱・電気）を賄っており、燃焼に伴い発生したCO2を排出しています。</p> <p>地球温暖化防止のために、エネルギー消費効率の向上させる「省エネルギー」による燃料使用量削減に取り組んでいます。</p> <p>■今年度の主な取り組み</p> <p>当所では、以下により燃料使用量の削減に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排ガス中の酸素濃度の厳密管理</li> <li>・スチームトラップ管理強化</li> <li>・低圧スチームの有効利用</li> <li>・装置の高度制御システム導入による更なる省エネ志向の運転</li> <li>・リアクター反応温度や蒸留塔還流比最適化などによる更なる省エネの追求</li> <li>・画像処理によるフレア監視システムの導入（フレアロス削減）</li> </ul> <p>■来年度の主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度対策の継続</li> <li>・新規省エネルギー技術の導入 <ul style="list-style-type: none"> <li>+省エネ型熱交換器チューブの導入（ツイストチューブによる熱交換量アップ）</li> <li>+チューブインサートの導入（ファウリング防止）</li> </ul> </li> </ul>

地球温暖化防止プロジェクト推進会議

地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名： 株式会社クラレ 岡山事業所

委員名： 谷浦 昌人 (環境安全部)

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名称	時期	内容等
1. 環境負荷低減活動	通年	IS014001 活動の取り組みを通じて、環境負荷の低減をはかる。主要な活動内容を以下に示す。 (1) 製造方法の見直し (設備改造) 及び高効率機器への設備更新等により、消費電力量 (使用スチーム量) の低減を実施 (CO2 排出量の削減) (2) 環境負荷を低減した製造方法への変更 (PRTR 物質排出量削減) (3) 収率向上対策の実施等による廃棄物発生量の削減 等
2. 環境製品の開発・販売		(1) ガス遮断性エバールフィルム (食品包装材、自動車ガソリタンク等に使用) の製造・販売 (2) アスベスト及び天然皮革代替等、環境負荷低減製品の製造・販売 等
3. 環境保全・啓蒙活動 (行政主催活動への参加)	2017 年～ 2004 年～	(1) 児島湖清掃活動 等への参加 (2) エコ事業所活動 (ゼロエミッション・一般事業所) の認証取得 等

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内容等
22 年度より全社でカーボンプライシングの考え方を導入し、CO2 排出量の少ない設備の導入を促進する。

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化対策に関する取組状況について

所属団体名：岡山県市長会

委員名：岡山県市長会 事務局長 小西洋史

【岡山市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績（令和2年度）

名 称	時 期	内 容 等
地球環境問題ポスターコンクール	12月～3月	作品募集・入賞作品を展示する。
岡山市環境保全行動計画の推進	通年	P D C Aサイクルによるマネジメントより、市役所自らの事務事業から発生する環境負荷の低減に取り組む。
岡山 E S D プロジェクトの推進	通年	市域において E S D を推進するとともに、市域内外との情報交換・交流を進める。
ライトダウンキャンペーンの実施	6月～7月	夏至から七夕の間のライトダウンを呼びかける。アスエコと共同で啓発イベントを実施する。
L E D 防犯灯の設置普及	～3月	町内会の防犯灯の L E D 化を支援、市の防犯灯の L E D 化を推進する。
市民共同発電事業	通年	市民団体が、市民からの募金を基に太陽光発電設備を設置する活動等を支援する。
市有施設への再生可能エネルギーの導入	通年	認定こども園などに太陽光発電システムを導入する。
住宅用スマートエネルギー設置補助事業	～3月	市内の住宅に太陽光発電システム、省エネ設備、電気自動車等を導入する個人に経費の一部を助成する。
事業所用スマートエネルギー設備導入補助	～3月	市内の事業所への省エネ設備、電気自動車等を導入する場合に経費の一部を助成する。
エコドライブ講習	年5回	体験型エコドライブ講習会を開催する。（実

習会		技4回、座学1回)
二酸化炭素削減ポテンシャル診断	通年	国の補助事業を利用し、市有施設からの二酸化炭素排出量削減のための診断を実施する。
緑化推進	通年	生垣・屋上緑化・壁面緑化等に助成する。
クールビズ	5月～10月	執務室の冷房温度の28℃に設定し、ノーネクタイ等のクールビズを推進する。
ウォームビズ	11月～3月	執務室の暖房温度を19℃以下に設定し、重ね着等のウォームビズを推進する。
ノーマイカーデーの実施	5月	マイカー等の使用自粛の推進に取り組む。
スマート通勤おこやまへの参加	10月	マイカー通勤から公共交通機関への利用の転換を呼びかける。
省資源の推進	通年	岡山市環境保全行動計画に基づき、節水・コピー用紙の節減の推進に取り組む。
バイオ燃料地域利用事業	通年	使用済天ぷら油を回収してBDFを精製し、ごみ収集車等の燃料とする。
グリーン購入の推進	通年	特定調達品目及び判断基準を見直し、グリーン購入の推進に取り組む。

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等		
○岡山市地球温暖化対策実行計画（温室効果ガス削減目標）		
・中期目標	2030年	▲46%（2013年度比）
・長期目標	2050年	実質排出量0

### 事業計画（令和3年度）

活 動 名	時 期	概 要
ゼロカーボン研究会の開催	通年	産学官でゼロカーボンシティ実現のための具体的取組みについて研究する。（年4回）
道路照明のLED化	通年	ESCO事業で約6,800灯を一括でLED照明に切り替える。

公用電気自動車の導入	通年	公用自動車を3台導入する。
地球環境問題ポスターコンクール	12月～3月	作品募集・入賞作品を展示する。
岡山市環境保全行動計画の推進	通年	P D C A サイクルによるマネジメントより、市役所自らの事務事業から発生する環境負荷の低減に取り組む。
岡山 E S D プロジェクトの推進	通年	市域において E S D を推進するとともに、市域内外との情報交換・交流を進める。
ライトダウンキャンペーンの実施	6月～7月	アスエコと共同で啓発イベントを実施予定。夏至及び七夕の日のライトダウンを呼びかける。
L E D 防犯灯の設置普及	～3月	町内会の防犯灯の L E D 化を支援、市の防犯灯の L E D 化を推進する。
市民共同発電事業	通年	市民団体が、市民からの募金を基に太陽光発電設備を設置する活動等を支援する。
市有施設への再生可能エネルギーの導入	通年	認定こども園、地域センター、コミュニティハウスなどへ太陽光発電システムを導入する。
住宅用スマートエネルギー設置補助事業	～3月	市内の住宅に太陽光発電システム、省エネ設備、電気自動車等を導入する個人に経費の一部を助成する。
事業所用スマートエネルギー設備導入補助	～3月	市内の事業所への省エネ設備、電気自動車等を導入する場合に経費の一部を助成する。
エコドライブ講習会	年4回	体験型エコドライブ講習会を開催する。(実技4回)
緑化推進	通年	生垣・屋上緑化・壁面緑化等に助成する。
クールビズ	5月～10月	執務室の冷房温度の28℃に設定し、ノーネクタイ等のクールビズを推進する。
ウォームビズ	11月～3月	執務室の暖房温度を19℃以下に設定し、重

ノーマイカーデーの実施	5月	ね着等のウォームビズを推進する。 マイカー等の使用自粛の推進に取り組む。
スマート通勤おみやまへの参加	10月	マイカー通勤から公共交通機関への利用の転換を呼びかける。
省資源の推進	通年	岡山市環境保全行動計画に基づき、節水・コピー用紙の節減の推進に取り組む。
バイオ燃料地域利用事業	通年	使用済天ぷら油を回収してBDFを精製し、ごみ収集車等の燃料とする。
グリーン購入の推進	通年	特定調達品目及び判断基準を見直し、グリーン購入の推進に取り組む。

【倉敷市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
ノーマイカーデーの実施	5月	マイカー等の使用自粛に取り組む。
クールビズ	5月～10月	冷房時の室温は28℃を目安とし、ノーネクタイなどの軽装を実践・啓発する。
くらしき環境フェスティバル	6月 (R3年度は中止)	環境講演会、体験型ブース等において、温暖化対策、ごみ減量、リサイクル推進、生物多様性保全、地産地消、新エネルギー関連の普及啓発等を実施する。
くらしき省エネセミナー	7月 (R3年度は中止)	中小事業者向けの省エネによる経営改善を目的としたセミナーを開催する。
ライトダウンキャンペーン	7月	市施設における不要な電気の消灯徹底、職員に対する家庭での消灯の呼びかけを行う。
ウォームビズ	11月～3月	暖房時の室温は20℃以下を目安とし、重ね着等による暖房に頼らないワークスタイル等を実践・啓発する。
STOP温暖化くらしき	12月	地球温暖化対策についての市民向け講演会を開催する。
グリーン購入	通年	グリーン購入を積極的に実践するとともに、市役所各部署でのグリーン購入促進に取り組む。
倉敷市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）	通年	市役所の事務事業の実施に伴う温室効果ガスの削減目標を定め、節電・省エネ・節水・紙削減・グリーン調達等の取組を推進する。
倉敷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）	通年	クールくらしきアクションプランに基づき、本市における温室効果ガス排出量のさらなる削減を目指す。
創エネ・脱炭素住宅促進補助事業	通年	戸建住宅に、太陽光発電システム、太陽熱利用システム、燃料電池システム、定置型リチウムイオン蓄電池システムを導入する個人及びリース業者に対し、その費用の一部を助成する。
次世代エコハウス	通年	地域特性を活かした省エネ性能の高い次世代エコ

導入促進補助		ハウス認定を受けた新築住宅を建築する個人に対し、その費用の一部を助成する。
電気自動車等導入促進補助	通年	EV、PHV、FCV及び充電設備の導入を行う個人及び法人並びに充放電設備の導入を行う個人に対し、その費用の一部を助成する。
中小企業の省エネ設備導入に対する補助	通年	エネルギーの見える化を行い、省エネ診断に基づく省エネ設備、再エネシステム等を導入する中小事業者に対し、その費用の一部を助成する。
COOL CHOICE	通年	クールビズ・ウォームビズに加え、省エネ機器の買い替え促進、エコドライブの推進、公共交通機関の利用などを促進する。

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>○倉敷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）</p> <p>2030年度目標（2013年度比）11.6%削減</p> <p>2050年度目標（2013年度比）80%削減</p> <p>R4年度計画改定に着手予定</p>
<p>○倉敷市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）</p> <p>2021年度目標（2013年度比）17.7%削減</p> <p>2030年度目標（2013年度比）34.9%削減</p> <p>R4年度計画改定予定</p>

## 【津山市】

### 1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
低炭素都市津山スマートエネルギー導入応援事業	平成22年度～	住宅用太陽光発電システム（令和元年度終了）、太陽熱温水器等、蓄電池、電気自動車等、超小型モビリティ購入に関する補助金支給
地球温暖化対策普及啓発事業	開始時期不詳	親子エコフェスタ、森の学校、水の学校等のイベントによる環境啓発事業
グリーンカーテン普及促進事業	開始時期不詳	市内幼稚園、保育所、児童クラブ等にゴーヤの苗及びプランター・土を無料配付。また、作品展の実施。
市民協働発電所事業	平成27年4月～	津山市で環境活動に取り組んできた団体等が設立した一般社団法人が統括管理を行う発電所事業に対し、市有施設の屋根等を無償提供。事業による利益は環境学習等の取組みに使われる。
グリーンニューデール基金事業	平成27年度	防災拠点や災害時に機能を保持すべき公共施設への、再生可能エネルギーや蓄電池、未利用エネルギー及び高効率省エネ機器の導入。
超小型モビリティ導入実証事業	平成26年度～平成29年度	超小型モビリティ・コムスを公用車としての利用及び他団体への貸出を行うことで、地球温暖化対策の普及啓発を行うとともに二酸化炭素排出削減に取り組んでいる。 ※実証事業自体は平成29年度で終了したが、現在も公用車として利用し、CO2削減に取り組んでいる。
カーボンオフセット事業	平成25年度～	市内住宅用太陽光発電設備によるCO2排出権を活用し、通帳作成や広報誌の印刷で発生したCO2をオフセットしている。また、各種イベントの際にカーボンオフセット商品をPRしている。
ライトダウン in つやま 2021	令和3年	岡山連携中枢都市圏事業の一環として、電気の大切さや省エネへの意識を高めるために、公共施設をはじめ、家庭や職場でも省エネの実施を呼びかける。
次世代自動車体験会	令和3年	交通の脱炭素化に向け、EV、PHEV、超小型EV、水素自動車などの次世代自動車の普及促進のため啓発活動を行う。

### 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>○津山市第2次環境基本計画（中間見直し版）</p> <p>計画期間：H28年度～R7年度</p> <p>2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、再エネ導入、エネルギーの効率的利用の推進、地域バイオマス資源の利活用等に取り組む。</p>

○津山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

計画期間：H29年度～R3年度

津山市の事務及び事業に伴って発生する温室効果ガスを本計画に基づく取組みを行うことで削減し、地球温暖化対策の推進を図ることを目的として策定。

削減目標：2021年度に2013年度比14%削減

2030年度に2013年度比40%以上削減

基本方針は、施設の省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入、電力のグリーン購入、設備の適正な運用とクールチョイスの推進。

○津山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

計画期間：平成30年6月策定

津山市全域の、市民生活や事業活動に起因して市内で排出される温室効果ガス排出削減を目的として、策定。

温室効果ガス排出量の削減目標：短期目標：2025年度に2013年度比18.4%

中期目標：2030年度に2013年度比26.0%

部門ごとの取り組み内容は下記のとおり。

- ・産業部門：高効率空調の導入、高効率ヒートポンプの導入、再生可能エネルギーの導入他
- ・業務その他部門：業務用ヒートポンプ給湯器の導入、再生可能エネルギーの導入他
- ・家庭部門：COOL CHOICE等による省エネルギー行動の実践、再生可能エネルギーの導入他
- ・運輸部門：次世代自動車への転換、燃費改善他

【玉野市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
緑のカーテンプ ロジェクト	春期～秋季	市役所本庁、保育園、幼稚園及び小中学校等 で、ゴーヤによる緑のカーテンを生育した。
ノーレジ袋推進 運動	6月、11月	マイバック持参の啓発等、ノーレジ袋推進運 動を実施した。
スーパークール ビズ	夏期	軽装等による冷房に頼らないワークスタ イルを推進した。
ウォームビズ	秋期	重ね着等による暖房に頼らないワークスタ イルを推進した。
グリーン購入	冬期	市民に配布する「ごみカレンダー」の印刷に おいて大豆油インクを使用するなど、グリー ン購入を推進した。
デマンド抑制装 置	通年	市役所本庁舎にデマンド抑制装置を導入し、 デマンド値（契約電力）の抑制効果によっ て使用電力の削減を図った。
急速充電器保守 管理	通年	E V急速充電器の保守管理を行い、利用環 境を維持した。
廃食用油回収	通年	学校給食センター及び市内2地区の家庭か ら排出される廃食用油を回収し、BDF（生 物由来ディーゼルエンジン用燃料）にリサイ クルした。
コンポスト容器 購入補助	通年	コンポスト容器購入費の一部補助により資 源化意識を促進し、ごみ焼却量の減量に努 めた。
地球温暖化対策 推進計画の実施	通年	「地球温暖化対策の推進に関する法律」に 定める「地方公共団体実行計画」として策 定した「玉野市地球温暖化対策推進計画」 に基づき、市の事務及び事業の実施によ って発生する温室効果ガスの削減に向け て、機器の省エネ化、節電等に取り組ん だ。

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<ul style="list-style-type: none"><li>• 現在、玉野市地球温暖化対策推進計画において、市の事務及び事業の実施によって発生する温室効果ガス排出量を、2021年度までに基準（2015）年度比で22.8%削減することとしている。 2019年度排出量〔確定値〕の削減比実績・・・17.7%</li><li>• 2021年2月、13市町が参加している岡山連携中枢都市圏において、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言を発表し（長期目標）、啓発事業や取組事例の共有、再生可能エネルギー推進の検討など、共同で地球温暖化対策に取り組むこととしている。</li><li>• 今後は、長期目標の達成に向けたPDCAサイクルに資するため、2030年頃までを対象期間とする本市区域内の中期的な削減目標や、取組事項等を設定するとともに、当該中期目標の達成に向けて、区域内事業者の排出量削減活動等の模範や目安となるよう、玉野市地球温暖化対策推進計画（市の事務、事業）における目標等を再設定する必要があると捉えている。</li></ul>

【井原市】

(総務課)

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
井原市役所地球温暖化対策推進実行計画(事務事業編)(第5期)により強化・拡充を図る【実績】	平成30年3月～ 令和4年度	C02 排出量や削減ポテンシャル等の現状の分析を行い、2030年度に向けた目標及びその目標の達成のために取り組むべき施設及び設備の絞り込みを行いました。 また、全庁的かつ多層的なPDCAを備えたカーボン・マネジメント体制の整備及び推進をします。 この計画を基に、該当施設及び設備の空調機器や照明器具のLED化等により、二酸化炭素排出削減をし、もって地球温暖化対策を進めていきます。
クールビズ	5月～10月	執務室の冷房温度の28℃に設定し、ノーネクタイ等のクールビズを推進
ウォームビズ	11月～3月	執務室の暖房温度を19℃以下に設定し、重ね着等のウォームビズを推進
グリーン購入の推進	通年	特定調達品目によるグリーン購入に取り組む推進

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
井原市役所地球温暖化対策推進実行計画(事務事業編)(第5期) ・2013年度を基準に2023年において総排出量9,122(t-CO2) 基準比▲24.7%の削減

(環境企画課)

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
1. 井原市環境フェア ※ 令和3年度はコロナ禍により中止	毎年6月1週目の日曜日	6月の環境月間に合わせ、各種環境団体が集い、地球にやさしい暮らし方を考え、気づき、行動してもらうことを目的として市と井原市環境フェア実行委員会の主催により実施する。会場では3R推進やマイバッグ運動啓発、環境学習体験ブース等でごみ削減を促し、地球温暖化等について考えてもらうイベントとしています。
2. 環境ポスター展示 【実績】	令和3年10月29日～11月8日	市内小学生を対象に「地球温暖化防止」、「ごみ減量化・リサイクル推進」、「食品ロス削減」をテーマにポスターを募集。優秀作品は井原駅ビル内に展示し、地球温暖化防止等を訴えました。 また、入賞作品6点を市内一般廃棄物収集運搬委託

<p>3. 市役所及び関連施設の独自の「ライトダウンキャンペーン」実施 【実績】</p>	<p>平成30年3月14日から開始 (毎週水曜日実施)</p>	<p>事業者のご協力のもと、パッカー車3台に掲示し、市内全域に活動のPRを図ります。</p> <p>市役所及び関連施設で毎週水曜日の20時以降にイトダウンを推奨する取り組みを行っています。</p>
<p>4. エコまちモデル事業整備(電気自動車急速充電器・太陽光発電型LED照明・太陽光発電システム・定置型リチウムイオン蓄電池・エネルギー監視システム・啓発用看板設置) 【実績】</p>	<p>平成30年3月10日  平成31年1月12日</p>	<p>市民の省エネルギーや再生可能エネルギーへの関心を高め、循環型社会の形成を図るため、エコまち事業の推進として、モデル施設の整備を行いました。</p> <p>整備の内容は、29年度には美星産直プラザに電気自動車急速充電器1基と太陽光発電型LED照明4基を設置しました。</p> <p>また、30年度には太陽光発電システム(5.2kW)、定置型リチウムイオン蓄電池(5.6kWh)、エネルギー監視システム、また本事業による取り組みを推進するための啓発用看板を設置しました。</p>
<p>5. 地方公共団体実行計画(事務事業編)の改訂により強化・拡充を図る 【実績】</p>	<p>平成31年3月</p>	<p>CO<sub>2</sub>排出量や削減ポテンシャル等の現状の分析を行い、2030年度に向けた目標及びその目標の達成のために取り組むべき施設及び設備の絞り込みを行いました。</p> <p>また、全庁的かつ多層的なPDCAを備えたカーボン・マネジメント体制の整備及び推進をします。</p> <p>この計画を基に、該当施設及び設備の空調機器や照明器具のLED化等により、二酸化炭素排出削減を行い、もって地球温暖化対策を進めていきます。</p>
<p>6. 井原市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金交付 【実績】</p>	<p>平成21年4月1日 (平成27年4月1日改正、蓄電池を追加)</p>	<p>市民のクリーンエネルギー利用を積極的に支援することにより、地球規模での環境保全及び環境問題に関する市民意識の高揚を図り、環境にやさしいまちづくりを推進するため、住宅用太陽光発電システム及び住宅用定置型蓄電池を設置する者に対し、補助金を交付しています。</p>

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>【第2次井原市環境基本計画】</p> <p>省資源・省エネルギー対策、再生可能エネルギー導入、水資源の有効利用、ごみの発生抑制・減量化等の各対策及び森林整備や都市緑化による吸収源対策を総合的に推進し、温室効果ガスの排出抑制を図ります。</p>

## 【総社市】

### 1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
そうじゃプラス チックごみゼロ 宣言	令和 3 年度から	海のないまち総社市が豊かな自然を将来に繋ぐた めにプラスチックごみゼロを宣言。
ごみ袋変動相場 制	平成 22 年から	市内から出されるごみの量により、3 年毎にご み袋の料金見直し。
緑のカーテン設 置	平成 20 年度から 毎年(5 月～10 月)	市庁舎の南側に約 60 本のゴーヤを植えて、壁 面に緑のカーテンを設置することにより室温 上昇を抑制。

### 2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>総社市地球温暖化対策実行計画（2021 年度～2025 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の基準年度及び期間 基準年度 平成 25 年度，短期目標年度 令和 7 年度，最終目標年度 令和 12 年度</li> <li>・削減目標 短期目標年度である令和 7 年度の二酸化炭素排出量は，基準年度比で 25.2% 削減，最終目標年度である令和 12 年度の排出量は基準年度比で 26.7% 削減。</li> <li>・目標に向けた取組 二酸化炭素排出要因である電気使用量，燃料使用量，一般廃棄物（うち廃プラスチック）焼却量を削減する為に，公用車の効率使用や，照明・空調設備の適正使用，省資源・ごみ減量などの取組項目を設定。</li> </ul>

【高梁市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
若者定住促進住宅助成金・空き家情報バンク活用促進助成金	平成30年度～	住宅リフォーム、空き家再生の際、省エネ性能向上(高効率給湯器)に関する改修に対する助成。
公共施設のLED化	令和2年度～	街路灯及びスポーツ施設のLED化を年次的に改修を実施。
高梁市電気自動車等購入費補助金	令和3年度～	市民・事業者が電気自動車又はプラグインハイブリッド自動車を購入した際の補助
電気自動車の購入(公用車)	令和3年度	公用車として電気自動車1台を導入

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
第2次高梁市環境基本計画…令和3年度策定中
高梁市地球温暖化対策実行計画(事務事業編) 平成28年策定 期間:平成29年度から令和3年度

【新見市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
庁舎内の節電	通 年	昼休み、始業前、時間外業務での不用な照明の消灯
クールビズ	5月～10月	業務時の服装をノーネクタイ等の軽装とし、冷房時の室温を高めに設定する
ウォームビズ	11月～3月	業務時の服装を重ね着等で暖かくし、暖房時の室温を低めに設定する
低公害車の利用	通 年	市外出張はハイブリッド車、市内では電気自動車・軽自動車の利用推奨
クールシェア	6月～9月	公共施設のクールシェアスポットへの登録、利用啓発
住宅用太陽光発電システム設置費補助	通 年	市内の住宅へ居住する市民に対して、屋根等へ太陽光発電システムを設置する場合の工事・購入費補助
住宅用太陽熱温水器設置費補助	通 年	市内の住宅へ居住する市民に対して、屋根等へ太陽熱温水器を設置する場合の工事・購入費補助

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
第3次新見市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 計画期間：令和3年4月～令和8年3月

【備前市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
備前市住宅用太陽光発電システム設置費補助金	H22年度～24年度	市が推進する環境にやさしいまちづくりを実現することを目的として、住宅用太陽光発電システムを設置する者に対して、1キロワット当たり20千円を予算の範囲内において補助金を交付していた。
備前市地球温暖化対策実行計画「事務事業編」策定	H28年度	地球温暖化対策の推進に関する法律第21条に基づき、市の事務及び事業に関し、温室効果ガスの排出量の削減についての計画を策定した。
カーボンマネジメント強化事業	H30年度～H31年度	市内施設2箇所（養護老人ホーム、総合運動公園体育館及び温水プール）の照明、空調、給湯設備等を更新し、省エネ化を図るとともに該当施設にクラウドBEMSを導入し、同ネットワークに接続する施設を増やすことで施設のCO2排出量を一元的に管理している。
電気自動車導入費補助金	H28年度より	予算の範囲内において電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、V2H充電設備を購入した市民に備前市電気自動車等導入費補助金100千円を交付している。
廃食油回収事業	H30年度より	家庭の使用済み食用油を回収し、飼肥料や油脂製品の原材料として業者へ販売し再利用する取り組みを実施している。
急速充電器設置事業	H28年度より	市内6か所に急速充電器を設置し電気自動車の普及促進を図っている。
岡山連携中枢都市圏一斉ライトダウンキャンペーン	R3年度より	・啓発グッズ（300部）を市役所環境課窓口及びロビーにて配布。 啓発グッズ内容物：啓発チラシ、キャンドル1個 ・ノー残業デーである7月7日（水）に、市役所本庁舎、各支所、出張所、出先機関において、職員は可能な限り一斉退庁し、市役所本庁舎等の施設の照明等（パソコン等の電気機器を含む）を18時から消灯あるいは半消灯する。
備前市再生可能エネルギー利用最大化調査業務委託	R3年度	備前市内の再生可能エネルギーを最大限利用するための基礎情報の収集、課題の整理、具体的施策の検討等を行い、本市のゼロ・カーボン化に向けたロードマップを作成している。 ※R4.1月末完成予定。

## 2 温室効果ガス削減に向けた計画

### 内 容 等

- ・ 備前市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】
  - ※平成29年2月策定、令和4年度改定予定
  - ＜温室効果ガス排出量削減目標＞
    - 2013年度（基準）：16,507t-co<sub>2</sub>
    - 2021年度：13,206t-co<sub>2</sub>（20%削減）、2030年度：9,769t-co<sub>2</sub>
  - ＜基本方針＞
    - 施設の省エネルギー化の推進、エネルギー使用状況の把握・分析・改善、CO<sub>2</sub>排出係数の低い電力の利用、職場での省エネ推進等。
- ・ 第3次備前市総合計画（第2期備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略）
  - ※令和3年9月策定、計画期間10年
  - ＜公共施設の二酸化炭素排出量（2013年度比）＞
    - 基準値：22%削減 目標値（2024）：30%削減
  - ＜目標達成のための取組＞
    - ◎地球温暖化対策の推進
      - ・ 「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を表明しており、「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組む。
      - ・ 現行の備前市地球温暖化対策実行計画「事務事業編」の改定、公共施設における省エネ設備及び再生可能エネルギー導入を検討。
      - ・ PPA を活用した地域の再生可能エネルギーの導入を検討。
      - ・ 岡山連携中核都市圏において共同で啓発事業、好取組事例の共有、再生可能エネルギー推進に取り組む。
- ・ 備前市地域エネルギービジョン
  - ※平成20年2月策定、計画期間20年
  - ＜エネルギー需要量削減目標＞
    - 2020年需要量1990年比：30%削減、省エネルギーへの転換：4.8%、省エネルギー化の推進他：25.2%
  - ＜二酸化炭素排出量将来推計＞

(t-co<sub>2</sub>)

	1990年 (基準年)	2006年	2010年	2020年
民生家庭部門	44,011	51,216	49,782	49,323
民生業務部門	20,790	25,497	22,973	21,796
産業部門	372,810	280,936	280,093	277,564
運輸部門	141,475	148,215	147,856	146,412
計	579,086	505,864	500,704	495,095

<新エネルギー活用プロジェクト>

太陽エネルギーの利用、木質バイオマスの活用推進、BDFの活用、マイクロ水力発電の利用、クリーンエネルギー自動車の導入等。

・備前市水素のまちプロジェクト

水素の製造・貯蔵・配送を担う「水素コンビナート」構想を核として、太陽光やバイオマス等の再生エネルギーを組み込んだ水素サプライチェーンの構築を目指して地域全体で取組みを進めていく。

【赤磐市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
BDF（バイオディーゼル燃料）の使用	R3年2月～	環境センターでゴミを燃やす燃料として、灯油の代わりに、使用済みてんぷら油等から作られるBDFに切り替えた。 BDFはカーボンニュートラルな燃料で、CO2排出はゼロカウントとなる。
生ゴミ処理容器購入費補助金	H17～	ゴミの減量化及びリサイクルの推進のため、生ゴミ処理容器の購入に対し補助する。

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言 R3.2.2 ※岡山連携中枢都市圏13市町で共同宣言</li> <li>・ 再エネ100RE Action参加 R3.10.20 ※使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組み。赤磐市は2050年までに使用電力100%再エネを目指す。</li> <li>・ 赤磐市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）R2.3 ※令和6年度（計画見直し年度）で、平成25年度比21.7%のCO2削減を目指す。</li> </ul>

【真庭市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
COOLCHOICE推進事業	R3.11	脱炭素型ライフスタイルイベントの開催 マイボトル給水スポットの設置 63か所 啓発動画作成
第3次真庭市地球温暖化対策実行計画（事務事業業編）	H29年度～令和3年度	短期目標 基準年度比(H25)8%削減(1,699t-co2相当) 長期目標 基準年度比(H25)30%削減(6,287t-co2相当)
マイクロ水力発電	R1.8～	水路を活用したマイクロ水力発電を継続実施中。売電収益は地域の伝統行事（大宮踊り）の保存活動に活用。
公共施設での木質バイオマス発電電力の活用		真庭市役所本庁舎、消防本部、真庭市上水道施設14施設、小中学校27校、学校給食施設3施設、こども園2施設、久世エスパセンター、グリーンブルヒルゼン

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次真庭市地球温暖化対策実行計画（事務事業業編）策定中</li> <li>・脱炭素先行地域への応募に向け検討中</li> </ul>

【美作市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績

名 称	時 期	内 容 等
◆カーボン・マネジメント強化事業	R元～R2	エネルギー効率が良く、二酸化炭素削減に効果がある設備に更新（空調、照明、給湯）し、また、BEMSの導入による二酸化炭素削減を実施。 【実施施設】愛の村パーク、大芦高原温泉、大原病院
◆市有施設への再生可能エネルギーの導入	H27	観光施設（愛の村パーク）に薪ボイラの導入。
◆市有施設への再生可能エネルギーの導入	H26	北部に位置する3総合支所（勝田・大原・東栗倉）に薪ストーブの導入。
◆市有施設への再生可能エネルギーの導入	通年	教育施設、こども園、スポーツ施設等市有施設へ太陽光発電システムを導入。
◆LED照明への交換	通年	更新時期等を迎えた照明機器改修時のLEDへの交換。
◆LED防犯灯の設置普及	通年	地球環境への負荷の少ない省エネルギー型の光源を使用した防犯灯を設置する自治会等に対して、設置に要する経費の一部を補助。
◆ノー残業日の推進	通年	週1回、残業を実施しない日を定めてノー残業の推進を実施。
◆クールビズ	5/1～10/31	冷房中は室温を28度に設定。軽装業務の実施。
◆スマート通勤おかやま	11/1～11/12	可能な範囲で自家用車ではなく自転車や公共交通機関等を利用して通勤する取り組み。

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
◆美作市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）H29.3月 美作市内の市民生活、事業者等の活動により排出される温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組みを推進することを目的として策定。
◆美作市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） H30.2月 本市の事務事業により排出される温室効果ガスの把握及び排出抑制を目的として

策定。

計画期間 2019年度（H31）～2023年度（R5）

短期目標 24.5%削減4,826t-CO<sub>2</sub>

長期目標 41.6%削減8,205t-CO<sub>2</sub>

※活動状況や計画の評価、推進方法等を検討する「温暖化対策推進本部会議」を実施。

※温暖化対策に対する意識の向上、温室効果ガスの排出抑制への取組推進のため職員研修会の実施。

【浅口市】

1 温室効果ガス削減に係る取組実績 (R3)

名 称	時 期	内 容 等
クールビズ	5月～9月	ノーネクタイ、ノージャケットなどの服装に努め、室温28度以上に設定する活動に参加した。
ノーマイカーデー	5月最終金曜日	マイカーを使わず、公共交通機関や相乗り出勤のより二酸化炭素削減を促進する活動に参加した。
クールシェアスポットokayama	7月～8月	地域で気軽に集まって涼むことが出来る「クールシェアスポット」として、かもがた町家公園、天文博物館を開放した。
スマート通勤okayama	10月最終週 平日月～金曜日	民間企業も含めた、5日間対象の二酸化炭素削減促進の活動に参加した。
ウォームビズ	11月～3月	室温を20度以下に保つなどの、二酸化炭素削減を促進する活動に参加した。
標語コンクール	12月	市内公立小学校4年生児童を対象に「ごみの減量・リサイクル」をテーマに標語を募集。また、最優秀賞1作品・優秀賞2品・特別賞2品の表彰式を12月24日に行い、その作品を市内一般廃棄物収集運搬委託業者のご協力のもと、パッカー車3台に掲示し、作業に当たってもらうことで市内全域に活動のPRを図った。
エコドライブ	年中	アイドリングストップ、タイヤの空気圧をこまめにチェックする等のエコドライブを広報などで推進した。

2 温室効果ガス削減に向けた計画

内 容 等
<p>・浅口市地球温暖化対策地域推進計画（平成22年3月策定。令和5年度改訂予定）</p> <p>○短期目標年度…2012年度</p> <p>○中期目標…2020年度 2020年度の排出量を現状の25%削減</p> <p>○長期目標…2050年度 2050年度の排出量を現状から60～80%削減</p>

地球温暖化防止プロジェクト推進会議  
地球温暖化防止対策に関する取組状況について

所属団体名： 岡山県町村会

委員名： 亀森敏宏

1 取組実績及び計画等

名 称	時 期	内 容 等
クールビズ県民運動	5月から10月	・職員に対して、クールビズの周知
ウォームビズ県民運動	11月から3月	・職員に対して、ウォームビズの周知
	年 間	・休憩時間の消灯